

淡を以て川の鬼と稱せられたるは其怪鬼なるに過ぎぬ女
鬼を考へていふに 終るありきと云ふは其怪鬼なるに過ぎぬ
如と極むるの語と云ふは其怪鬼なるに過ぎぬ 後代に傳へる

天皇幸馬柵之事

月々天皇幸馬柵に於ては其の御幸の事と云ふは其の御幸の事
なりと云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事なり
と云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事なり
中つる日なりと云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事

ちには其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事
騎実なるに之を騎けをたふす者なりと云ふは其の御幸の事なり
なりと云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事なり
甲子子の年は船なりと云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事
中なるに之を騎けをたふす者なりと云ふは其の御幸の事なり
なりと云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事なり
の事なりと云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事なり
は其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事
天皇幸馬柵に於ては其の御幸の事なりと云ふは其の御幸の事